



俺はサラリーマンの荒山夏男
あややまなつお
仕事の出張で急遽南国の島へと来ている。

連日の激務で疲れ果てた俺は
息抜きに事務所から離れたビーチに
向かうことにした。





「…って何だココ……？
女の人しかいない……っていうか……
みんなキワドイ水着着てるし……！」

「あら……もしかして
荒山さんじゃないですか？」



「えっ!? あ…浅尾さん!」



「奇遇ですね♪
昨年のパーティー以来ですか」

この美人は取引先の社長の奥さんで
あさおれな
浅尾玲奈という。
去年の新プロジェクトを祝したパーティーで
会った時も驚いたけど…本当にキレイだなあ…





「そう…ですね！
またお会いできてうれしいです…
水着とてもお似合いですね」



「あらあら……ふふっ」
荒山さんってばお上手なんですから」



「いえ本当に！キレイすぎて
こう目のやり場に困るぐらいで！
って何言っでんだ俺…申し訳ありません…」



「...そんなに褒めたら...
私本気にしちゃいますよ...?
...そうだ! ココのお酒とてもおいしいんですよ?
よろしければ一緒にいかかですか!」



「いただきます…あっおいしい！
そういえば浅尾さんはどうしてこの島に？
浅尾社長もこちらにいらしてるんですか？」

「主人は日本で仕事です...で私は
お邪魔みたいで南国の島にお払い箱
ってわけです」





マズいこと聞いちゃったな…

「それじゃあおひとりでの島に…
浅尾社長はかなりの敏腕ですし
ご多忙なんでしょうね」

「ここだけの話...あの人浮気してるんですよ
...10代の娘と...私が近くに
居ては羽を伸ばせないんでしょう」





「こんな美人の奥さん置いて
浮気なんて！信じられないです！
あ.....」

「……さつきから私みたいなおばさん褒めて…
こんな所見られたら彼女さんが困るんじゃない？」





「い……いえ……彼女なんていないですし……
それに……浅尾さんの苦しさを想像したらつい大声を……」



「玲奈って呼んで…夏男さん♡」



「えっ……いや社長の奥さんを
そんな軽々しく下の名前なんて……」



「ふうん…呼んでくれたら…
いいこととしてあげようと思ったんだけどなあ」



「ゴクッ…イイ…こと…?」

「実はこのビーチね…私みたいな
夫に不満のある奥さんだけが
集まる特別な場所なんですよ」

「旦那の愚痴を言ったりお酒を飲んだりして
ストレス発散してるの…
いい歳した女がみじめでしょ？」





「みじめだなんて…浮気してるのは
浅尾社長の方なんですし…!」

「夏男さんは優しいんですね…
なんだか…私あなたに…
本気になっちゃうかも…」♡」

「えっ…あっ…!玲奈さん…!」



「んちゅっ……んっ……♡♡」

「んっ……んっ……」



「ちゅっ♡…ふふっ…
玲奈って…呼んでくれましたね♡」



「玲奈さん…これ…マズインじゃ…」



「んっ…♡どうして？
夫とはもうとっくに冷え切っているし…
私だけ浮気はしちゃいけないってこと？」



『そうじゃなくて…俺…玲奈さんのこと
…好きだったから…止められないかもしれない』

「じゃあ両想いってことね…
嬉しい♡ねえ夏男さん…
その…はしたない女って
思われるかもしれないけど…
抱いで…くれませんか？」



「玲奈さんに頼まれなくても…俺も
準備万端って言うか……お願いします…」





「あっ…すごい…本当にカチカチになってる♡
これ…私とのキスで大きくしてくれたってこと…?」

「いや…正直玲奈さんの水着姿見た時から
半勃起しちゃってました…」



「じゃあ…そんなに期待してくれてた
若いおちゃんぽ…浮気おまんこで
お迎えしちゃいますね…♡」

ずっ
ぽう

「くおっ…やばっ…チンポが
玲奈さんのおまんこに包まれるっ…」





「こんな最高のカラダの奥さん
放っておくなんて…俺が玲奈さんの
寂しさを埋めてあげますね…!」

「あっ…すごいっ…♡
これっ…夫のより大きい…っ♡♡♡」







「これっ…気持ちよすぎて…
おかしくなっちゃうう…♡
夏男さん…夏男♡夏男♡」



「玲奈さん…いや…玲奈…♡
好きだよ…俺の女に…したいっ!」



「なってる♥もう…このおちんぽで
完全に夏男の女にされちゃってるのっ♥」



「あつ玲奈…スケベ過ぎてもう…
射精しちゃうよー中に…イクッー」



「イェっ…イェっっっっっっっっっっ」

「あん♡ああああああっ♡♡♡♡」

ぴんぽん♡♡



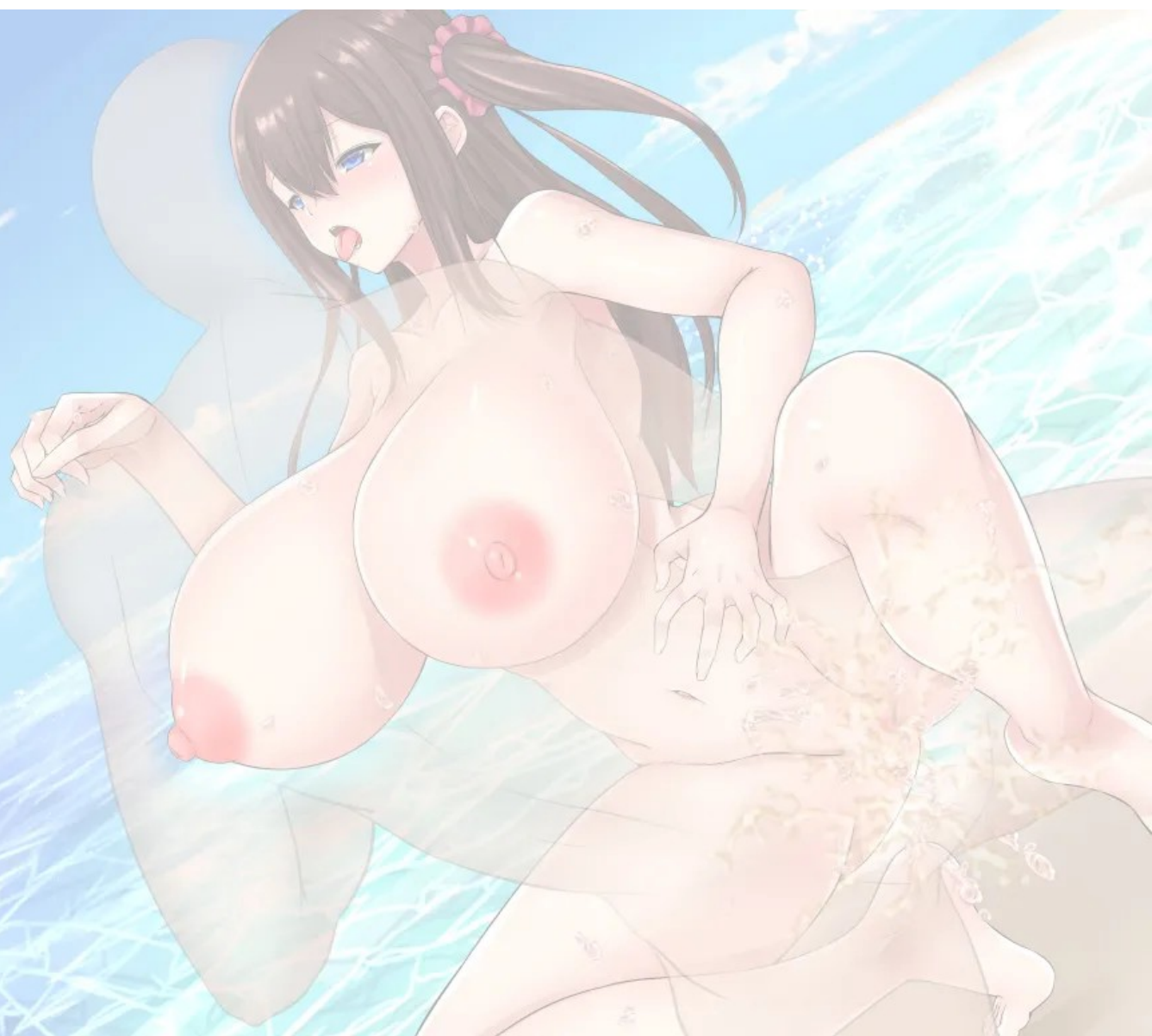
「玲奈…最高だったよ…♡」

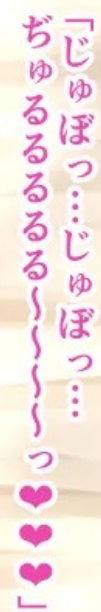
「はぁ…はぁ…夏男…ステキ…♡」

こうして…俺と玲奈は
——お互い酒の力を借りてたとはいえ——
一線を越えてしまった…。



そしてそれからというもの…
俺は仕事の合間を縫っては
玲奈のもとに通い…セックスをしまくった。





「うああっ…玲奈…そんなに
吸ったらすぐ射精しちゃうよ…っ♡」



「んっ…♡ごめんなさい…
だって夏男のおちんちん…
おっきくておいしいんだもの…♡」



「そんなに慌てなくても
俺のチンポは玲奈だけの
モノだよ…だからじっくり味わって」





「んっ…♡ぢゅぞぞぞぞぞ〜っ！
じゅっぽ！じゅっぽ！
れろっ…ぐぽっぐぽっ！」

「あぁっ…すごいよ玲奈
性欲丸出しのスケベフェラで
腰抜けちゃいそう…」





「夏男のおちんぼ…
早く欲しい…っ♡
気持ちよくお射精させられたら…
ぢゅるるっ♡おっきいおちんぼ
玲奈のおまんこにくださいっ♡」

っ♡っ♡っ♡

っ♡

っ♡

っ♡

っ♡

っ♡

っ♡

「もちろんだよ……ぐっ……昨日
初めてセックスしたばかりなのに……
俺たち相性いいのかも……！」





「ずぞぞっ!じゅるるっ♡♡♡
ぐっぽぐっぽ!」

じゅるるっ♡♡♡

♡♡♡

じゅるるっ♡♡♡

♡♡♡

ずっぽっ♡

ずっぽっ♡

ずっぽっ♡

「あーやばいっ精液こみ上げてきたっ
出るよっ玲奈…チンポおねだりの
すけべお口マンコに大量に！」



「イクよっ……！飲んで！全部っ……！」



「ん？うっ！？んんんんん……っ♡♡♡♡」

「うああっ…すごっ…
射精した直後の変態バキューム…!」

「ぢゅるるっ♡♡♡
…んんっ…ね…夏男…
早く…早くう♡♡♡」



「わかったよ玲奈…
気持ちいいフェラしてくれた
ご褒美あげないとね？」

「んっ…♡お願いっ…夏男…♡」



「それじゃあ…挿れちゃうよ？」

「ね…ねえ夏男…？
できれば…その…
昨日より激しく…のしりながら
セックス…してほしい…♡」



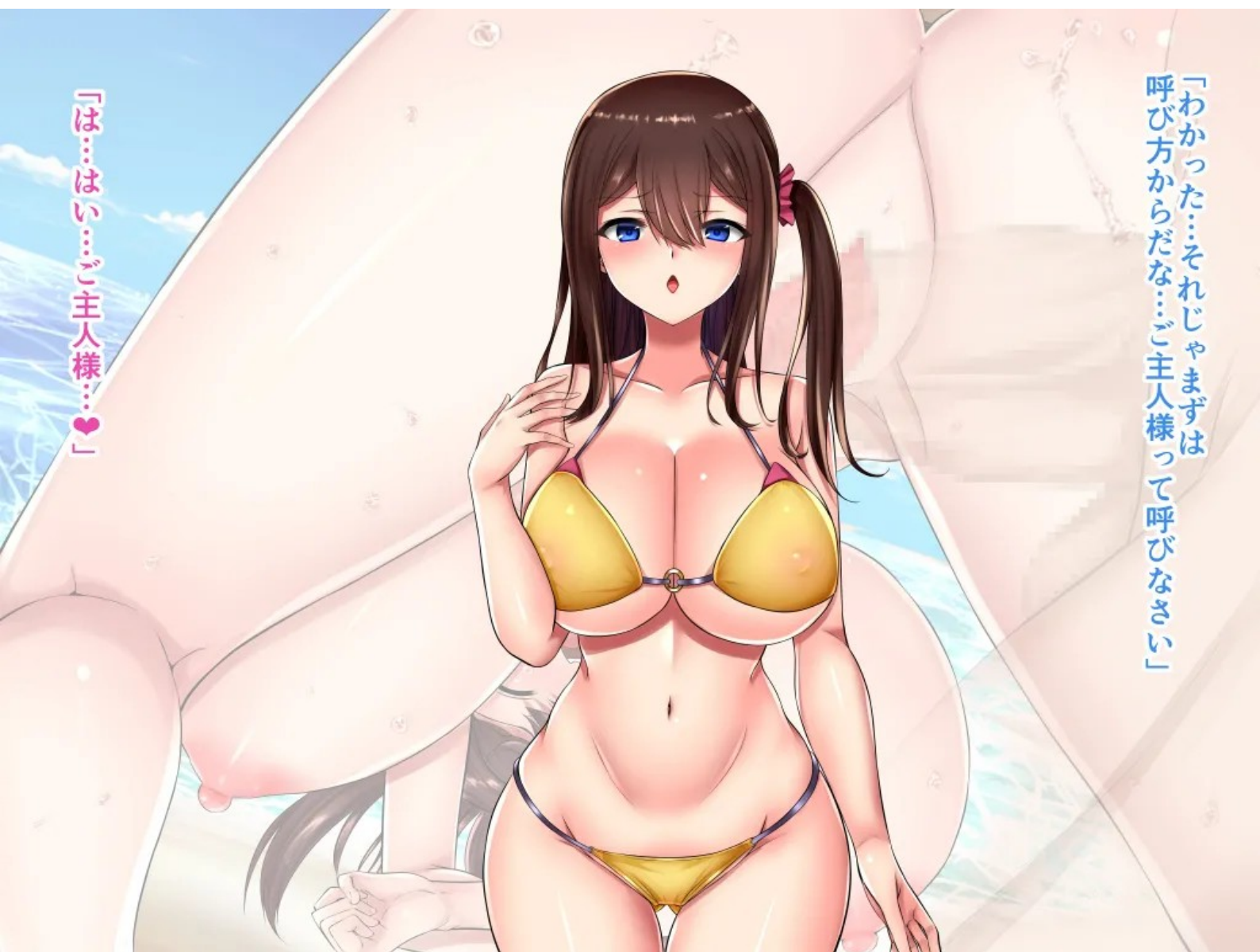
「玲奈…もしかしてMなの？」

「はいっ…♡
だから…この淫乱人妻おまんこ…
調教して…♡」



「わかった…それじゃまずは
呼び方からだな…ご主人様って呼びなさい」

「は…はい…ご主人様…♡」



玲奈の『ご主人様』というワードを聞いて
背筋がゾクリとなるのを感じた。

あの憧れの女性…
取引先の社長の妻が…
手の届かなかったはずの
高嶺の花が…

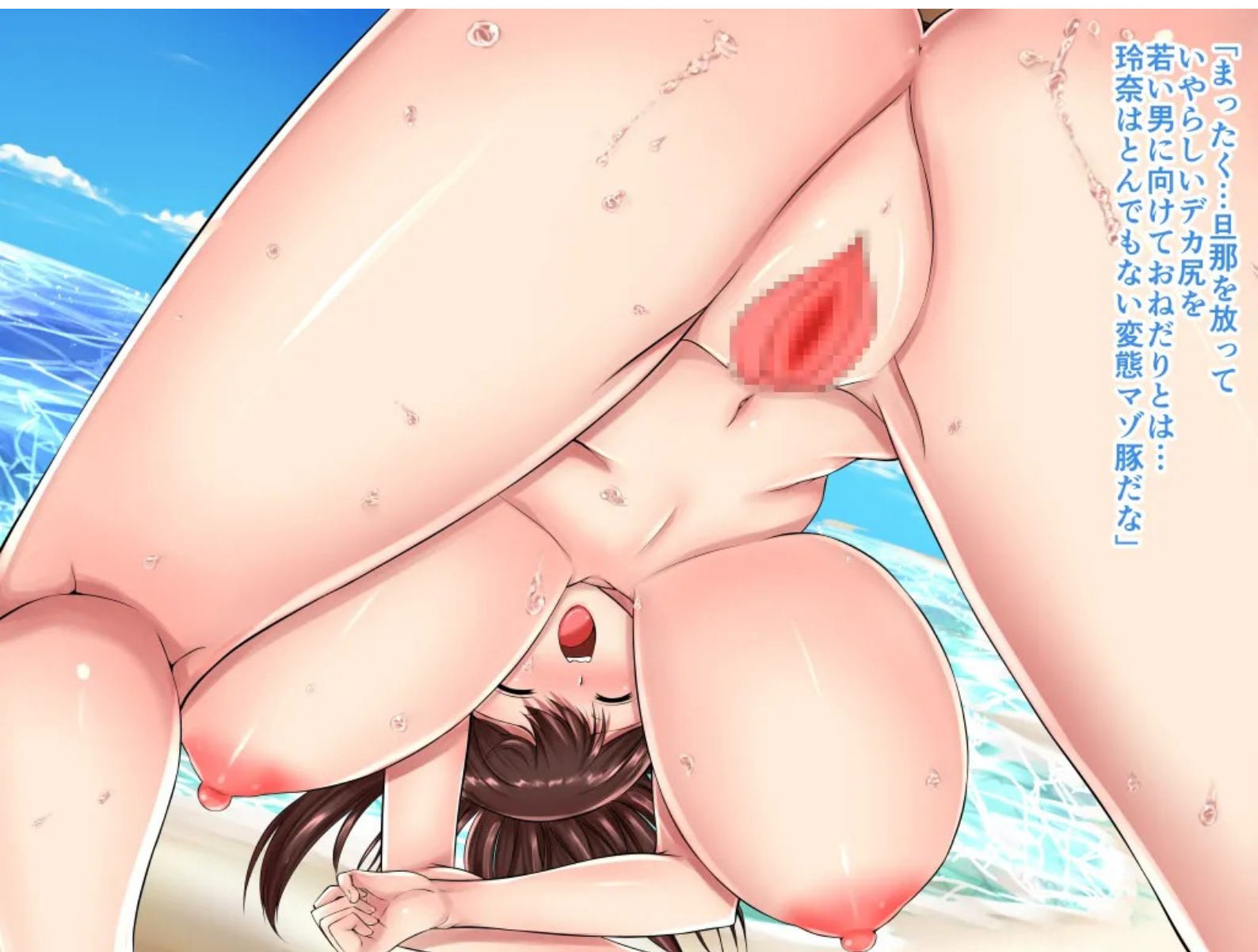


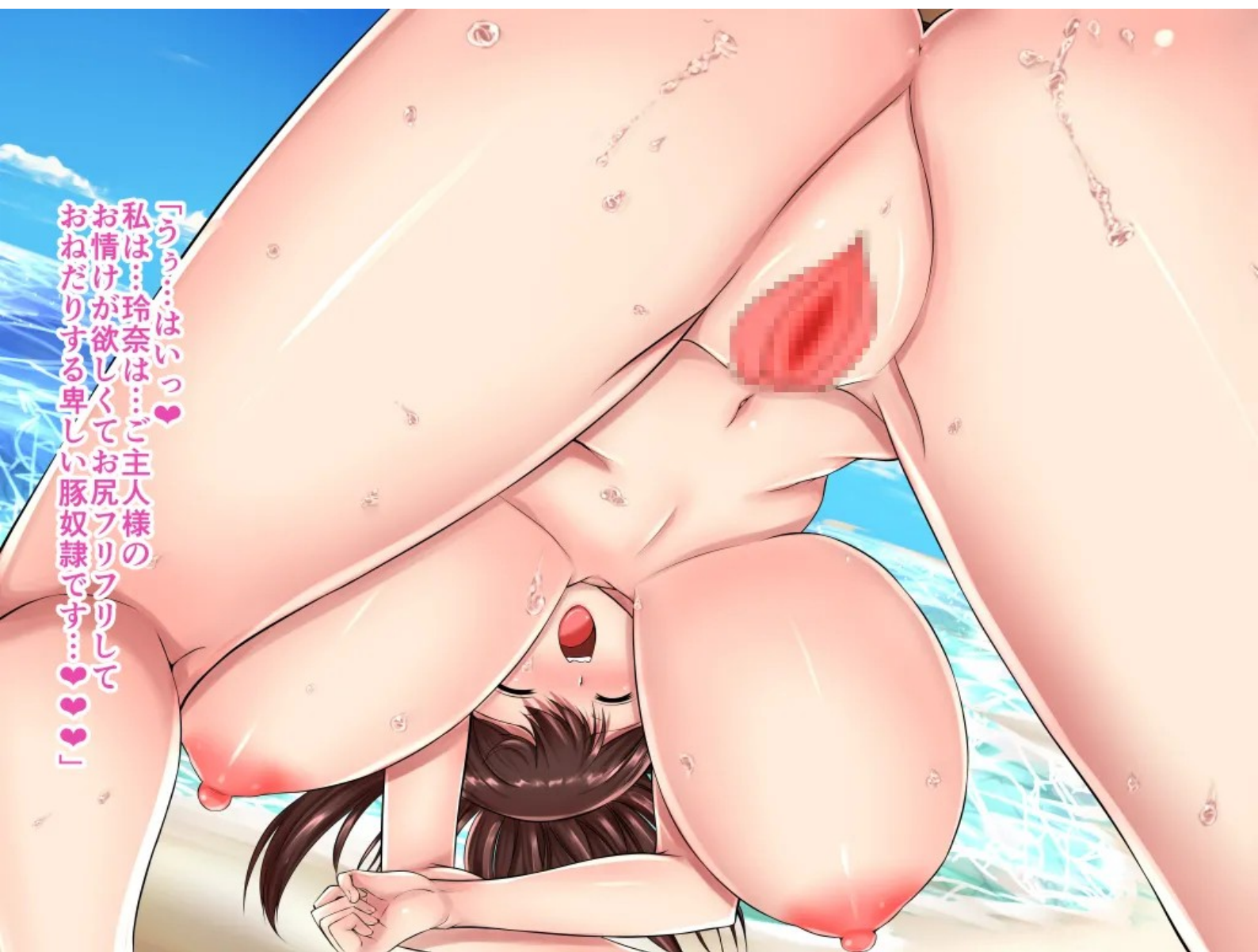
いまや俺の前で股を開き
若いチンコを欲するメスと化している…

この事実には俺は…人生で一番の
興奮を覚えていた。



「まったく…旦那を放って
いやらしいデカ尻を
若い男に向けておねだりとは…
玲奈はとんでもない変態マゾ豚だな」





「うう…はいっ♡
私は…玲奈は…ご主人様の
お情けが欲しくてお尻フリフリして
おねだりする卑しい豚奴隷です…♡♡♡」

「じゃあそのかわいい雌豚ちゃんに
ご奉仕フェラチオの御礼してあげないとね」

ず
び
っ

「ああっ♡♡♡
夏男のおちんちん…きたあっ♡♡♡」





「気持ちいい...っ♡
これっ奥までくるうっ♡♡♡」

おっぱい

ぬちゅ

あん♡

ググン

グチュ



「旦那のおちんぽとは
比べ物にならないのおっ♡♡♡」

「まったく…浅尾社長も
浮気するなんて最低だと思ってたけど
…間男のちんぽでヨがる玲奈も大概だね」





「オラっ！俺だけのちんぽ奴隷になれ
玲奈！一生俺のおまんこ奴隷だ！」





「んんっ...♡♡♡♡♡
奴隷です♡♡♡♡♡」
夏男のおちんぼの奴隷に
なります♡♡♡♡♡

「この青空の下
獣みたいにバックで
犯されて感じる！玲奈！」





「あああん♡♡♡だめえっ♡♡♡
ビーチで浮気相手のおちんぽで
アクメしちゃうのおおおっ♡♡♡」



「イクイクっ！
射精するぞ玲奈！
おまんこ中出しで
奴隷妊娠しろおおおっ！」

イクイク

グチュ

グチュ

あん♡

パン





しゅっぱ

「ああああっ♡♡♡♡♡
くるぅぅぅぅぅ♡♡♡♡♡」



「は...は...♡♡♡♡」

「はあ...はあ...さあ玲奈
...今度は俺たちのセックス
お友達の奥さんたちに
見てもらおうよ...」

一時間後：俺たちは
玲奈の愚痴仲間：もとい
友達を呼びセックスを
見せつけることにした—。



当然欲求不満な人妻たちだ！
断ることもなく興味津々の表情で
セックス鑑賞会を承諾した。





「うわぁ…玲奈さんのおまんこに夏男くんのおちんちん…ずっぽり入っちゃってるわぁ…♡」



「すごい……♡私の旦那の数倍の
大きさんじゃない……？
玲奈さん羨ましいなあ……♡♡♡」



「き…今日は…んんっ♡
私たちのセックスを見に来てくださり
ありがとうございます…♡♡♡」



「……こんにちは……
玲奈の恋人の夏男です……」

うう…やばい…言い出したのは俺だけど…

他人にセックスを見られるのって
めっちゃくちゃ恥ずかしいッ…!





「玲奈さんいいわねーそんなイケメンを
彼氏にできるなんて…私も味見したいくらい…♡♡」

「も……もう！夏男のおちんぽは私だけのものなんですからね！今回は夏男が言うから仕方なく……んっ……♡」



「ま...まあまあ...
今回は僕のわがままで
集まってもらった代わりに...
なるべく皆さんに満足してもらえような
セックスをしますね...!」

「ふふっ♥
期待してるわよぉ♥♥」



「それじゃあ動くよ玲奈…
ふんっ！」

「あっ♡♡♡子宮に届いちゃうっ♡」









「若いっていいわねえ〜…♡♡
夏男くん♪
後でお姉さんとも遊びましょうよ♡」

グ
チュ

ぐ
ぐぐ

あ
♡

い
っ
ぽ
ん

い
っ
ぽ
ん

い
っ
ぽ
ん

さ
ちゅ









「夏男…私…見られてるせいかな…んっ…♡♡♡」
もう…イっちゃいそう…♡♡♡」

さっ



「あっ...もうふたりともイっちゃらなうよ!」



「見たい見たいっ♡
夏男くんと玲奈さんのアクメ
私達に見せてえっ♡♡♡」

グ
チュ

ぐ
ぐぐ

あ
っ♡

い
っ
ぱ
ん

く
っ
ほ
っ

く
っ
っ
い

さ
ちゅ





「イクっ！玲奈受け止めてくれえええっ！」

「あっ♡♡♡♡♡いっくううううううう♡♡♡♡♡」

「はあ…はあ…皆さん…今日は
お集まりいただき…ありがとうございましたあ…♡」

「よかったら…また見に来てくださいね…♡♡」





その晩…僕は玲奈の暮らす別荘に
お邪魔することにした…。

言うまでもなく欲求不満な俺たちは
常にセックスしていたので
服も着ずにやりまくっていたのだが…。

「あっ……亭主から電話だわ……」



「えっ……浅尾社長から!?
浮気してるらしいからてっきり
電話なんて来ないかと……」

「いつもなら私が日本に帰るまで
何の音沙汰も無いのに...
ごめんなさいね夏男...少し待っててね?」



「は…はい…玲奈です」



「あ…もしもし玲奈？
来月結婚記念日だろ…
何か欲しいものとか無いか？」

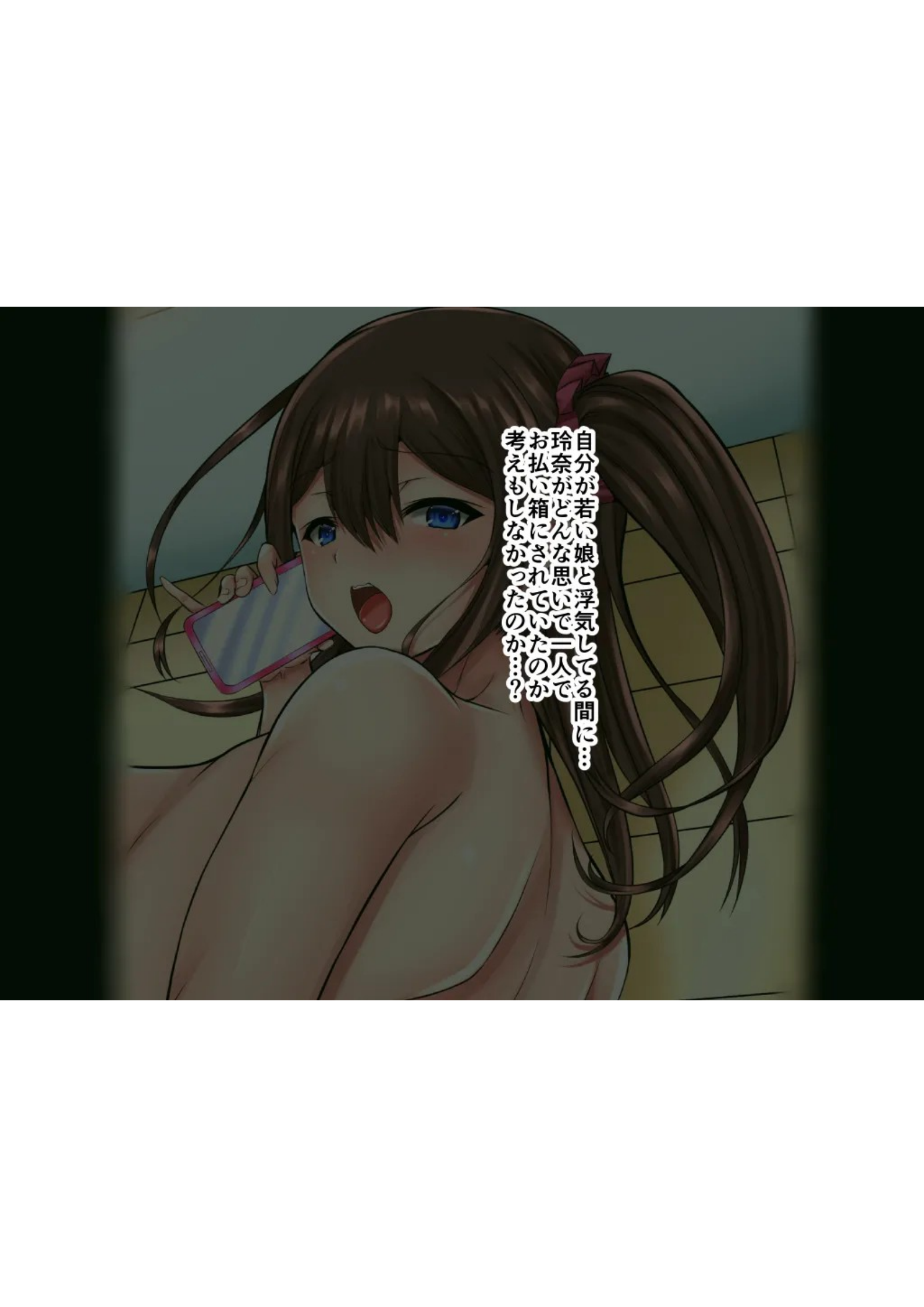
「…記念日なんて…
覚えていたんですね……
欲しいものなんて
ありませんよ……いまさら」



「れ…玲奈…怒ってるのかい？
そりゃあ仕事で構ってあげられない
のは悪かったが……機嫌直してくれよ」

この時俺は、浅尾社長の都合のよさに
腹が立つていた。





自分が若い娘と浮気してる間に……
玲奈がどんな思いで二人で
お払い箱にされたのか？
考えもしなかったのか？



そう思うと同時に
勝手に玲奈の膣内に
ペニスを挿入していた。
『玲奈は俺の女だ』と
証明したのがために。



「あっ...♡♡♡♡」

ずっ
う

「玲奈!? どうした!?
何かあったのか!?!」



「な…なんでもない…わ…♡♡♡
いまちようど料理してて…んっ…♡♡♡
そう…やけど…火傷しちゃったの…っ♡♡♡」

ちゅっ

ぬちゅ

んっ♡

いっゅ

ズッピン

パッ

んっ♡

あっ♡

ちゅ







気付けば玲奈に夢中になってしまった俺は
浅尾の電話に焚き付けられて
本心を口にしちゃった…

んっ♡
ぬちゅ
ちゃっ
ぐいゅ
ぱんぱん
びゅ

△ちゅ





「いまね…お客さんが…
すごく嬉しい…んっ♡♡♡♡
とっても素敵な…約束してくれたの…♡♡」

ちゅっ

ぬちゅ

んっ♡

ちゅっ

ズン
ズン

パン

ちゅ

んっ♡

あっ♡



「う？…ああ、友人か？
パーティーでは飲み過ぎないようにな」





「…電話…切れたみたいだね…
玲奈…今の言葉は本気だから…
返事は…今じゃなくていいから…
…くっ…いくよっ…玲奈!」







「ああああああっ♡♡♡♡♡
出てるっ…夏男の…♡♡♡♡♡
特濃ザーメン注がれて…幸せえ…♡♡♡♡♡」

翌朝：昨日の件もあったか：
俺たちは誰もいないビーチで
狂ったようにハメていた



もうセックスし始めてから3時間経つが…
一向に性欲が収まる気配が無かった。













恐らくわかりきった回答を予想しながら…
焦らすようにねっとりと膣内をかき回す。



かく言う俺自身も玲奈じゃないと
イケない体になってしまったし—。





「玲奈…嬉しいよ…
じゃあ確実に妊娠させるために
ハメハメ続けるね？」



「すごいっ…夏男の…
私の新しい旦那様のおちんちん良過ぎて
おかしくなっちゃうの♡♡♡」



「はあっ!はあっ!
好きだよ玲奈!
腰が止まらない!」







「こんなにいやらしい玲奈には
お仕置きザーメン注入するぞ!」



「イづくぞおおおっ！」

「うああっ♡♡♡あああああ♡♡♡」

びゅん





朝からハメまくった俺たちは
お互いの気持ちを確認したい。
心から満足していた。



そして自分の気持ちに
より正直になった玲奈の痴態も
それに比例して強いものにな
っていった…。

「ふふっ...」ねえ夏男...
この間は私の友達のこと...
いやらしい目で見てたわよね?」

はあはあ

あん♡

ぬちゃ

ポッ

パン

ぬちゃ

ポッ

くっく





「くおっ...玲奈のパイズリすごすぎるよ...
あ...あれはさ...向こうが挑発してくるからつい」

「ふーん？誘惑されたからって
新しい奥さんにおちんぽ挿れながら
よそ見しちゃうんだ夏男は？」

はあはあ

あん♡

ぬちゅ

ドッ

パン

ぬちゅ

ドッ

くっく





くっくっく...

あ〜♡

はあはあ

ぬちゃ

ぐっ

パン

ぬちゃ

ぐっ

「う...ごめん...いやらしい目で
見えました...でも！
俺が愛してるのは玲奈だけだよ！」



「本当かなあ？うう？
じゃあ...どれくらい愛を
私のおっぱいに注いでくれるか
確かめてみましょう」

はあ
はあ

ぬちゅ

ぐん

パン

ぬちゅ
パン

ぐんぐん



『うあつ...締め付けが強く...っ!
玲奈...もしかして実はS?』



「こう見えても夏男よりお姉さんなんだよ？
おちんちんおっぱいで
よしよしして…悪いこと考える
ウミを出しちゃいましようね♡♡」

あん♡

はあはあ

ぬちゃ

ポッ

パン

ぬちゃ

ガッ

くっく

「あぐっ…気持ちいい！」



「あっ♡♡おちんちんおっぱいの中で
ビクッてしたね!♡♡夏男くんは
お姉ちゃんのおっぱいちゅきですかあ〜?」

はぁはぁ

あ〜ん♡

ぬちゅ

パン

パン

ぬちゅ

ぐんぐん

ぐんぐん



「うう...玲奈...玲奈おねえちゃん...♡」

ぐんぐん...

ぬちゅーん

はぁはぁ

あーん♡

はぁはぁ

普段とは違う玲奈のSっぽいパイズリに
思わず甘えてしまう俺だった...





くっくっく...

あん♡

はあはあ

ぬちゅ

パン

パン

ぬちゅ

パン

「ふふっ♡私夏男のこと
Sっぽいかなあって思ってたけど...
隠れM男くんなの?♡♡♡」



「そ...それは...っ！こんな暴力的な
おっぱいにチンロ挟まれたら誰だって...ぐわっ！」

あん♡

はあ
はあ

ぬちゅ

ぐ

ぱん

ぬちゅ

ぐ

ぐわっ！



ぷんぷん

あん♡

はあはあ

ぬちゃ

ぽん

ぽん

ぬちゃ

ぽん

「はい言い訳禁止！
このままおっぱいぬふぬふして
だらしなくイっちょやおうね♡♡」



「アイっちゃえ...♡夏男♡
玲奈お姉ちゃんのおっぱいで
いっぱい射精しなさい♡♡♡」

あん♡

はあはあ

ぬちゅ

ぐ

パン

ぬちゅ

ぐ

ぐ



ぷんぷん

あん♡

はあはあ

ぬちゃ

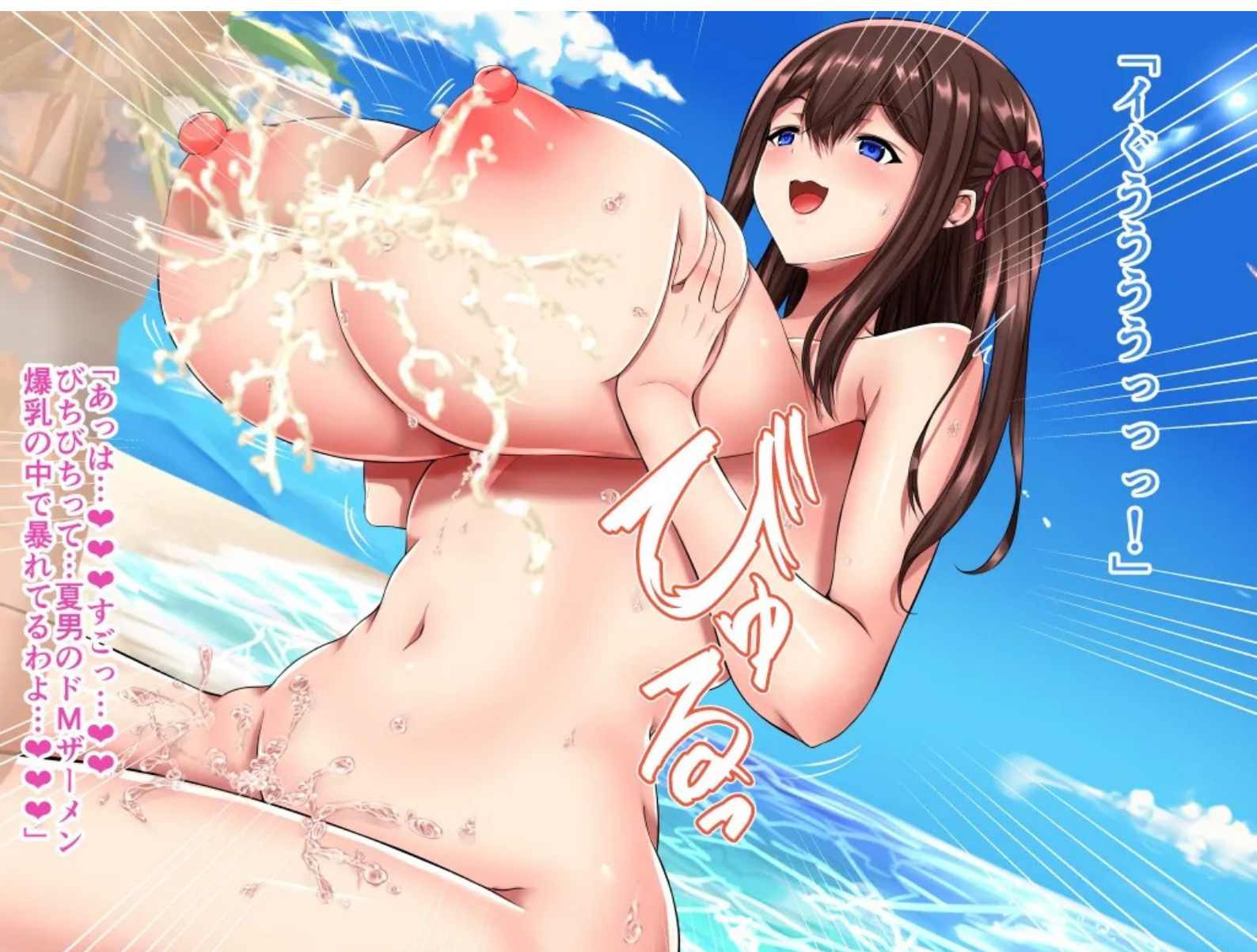
ぽん

ぱん

ぬちゃ

ぽん

「あつ…あつ…玲奈おねえちゃん…！
イっちゃう…いくよおおおおっ！」





「さ...それじゃあ今度はあ...
お姉ちゃんってっちしようか♡♡♡」

「玲奈...もしかして...
お姉ちゃんプレイに
ハマった...?」



「夏男…ほら…
早くぶち込んで…♡♡♡」

「まったく…さつきとは
打って変わって…
言われなくても
ぶち込んでやるよッ！」



「さっきは玲奈に
いじめられちゃったからね…
今度は俺が玲奈を
ヨガらせてあげるよ」







「玲奈はお腹の近く突かれるの
大好きだもんね…やりまくって
わかつちやったよ…」





「玲奈のこともっと
知りたい…このおまんこも
大きなおっぱいも…
むっちりしたお尻も俺のモノだ！」



今の玲奈の姿見たら浅尾社長
どう思うかなあ…という言葉は
飲みこんで腰を振ることに集中する。

パン
チ





「これから毎日味わうんだから
気をやらないようにね？」









「ぐっ…ヤバイその言葉
めちゃくちやチンコに
来るっ……！」







「玲奈…俺も…!!」
イクっ!また中出しで
子種仕込んであげるよ!



ぐんぐん... あっ♡♡

「イクうううっ♡♡♡♡」

「射精るうううっ!!」

ぽるる♡♡♡

びゅん!!

こうして：南国での生活を楽しんだ俺たちは
お互いの行動を進めることにした。



玲奈はこれまでの浅尾の浮気現場を
おさえた写真を始め、様々な証拠をもとに
弁護士に相談——浅尾は否定もできず
離婚にしぶしぶ同意するほかなかった。



俺の方は浅尾からの
慰謝料を頭金に加えて
玲奈との愛の巣：一戸建てを
構えることにした。

結婚とマイホームなんて
俺には縁のないものだと思ってたけど…
ある意味浅尾には感謝してもしきれない。



数か月後：新居寝室



「玲奈…挿れちゃうよ」





「ちゅぷっ…
ちゅうっ…♡♡♡
うん…夏男の♡♡♡
おちんぼ様♡♡♡
ちようだい♡♡♡」

ず
びっ
っ

[illegible][illegible]



ほっ



「あん♡嬉しい♡♡♡
夏男…今日は約束どおり
赤ちゃん仕込んでね♡♡♡」

「ああ…お望み通り
何発でも特濃子種
玲奈のおまんこに
ぎつとり仕込んでやるよ」

ぱん
びしょ
ぐわん
ちゅ
さ

ほっ



「んんっ♡♡♡
乱暴に子宮いじめられてえっ♡
感じちゃうよおっ♡♡♡」





「ぢゅるるっ♡♡♡
んっ♡♡♡出して…射精して♡
いつでも…好きなだけえっ♡」

ぱんぱん
んっ♡♡♡

ぱんぱん
んっ♡♡♡
んっ♡♡♡

あゅっ
さっ
ほっ



「くっ…いくよっ…スケベおまんこに
たっぷり俺のうどんザーメン
中出しして着床させるぞおっ…!」

ぱん
ぱん
ぱん

ぱん
ぱん
ぱん

ぱん
ぱん
ぱん

さっ
さっ
さっ

ほっ
ほっ
ほっ





「玲奈の変態マンコにイぐうううっ!」

びゅん

「んぐっ!?
ふあああああっ♡♡
いくううううっ♡♡」

んぐ
んぐ

「はぁ…はぁ…玲奈…
これからはずっと…
一緒に毎日セックスしてこうな…」



「は...はいい...♡♡♡
毎日夏男に...お精子
恵んでもらいますう...♡♡♡」



その後…玲奈から
人生で最もうれしい
報告を受けることになるのだが…



もう少し…今は
『ふたりだけ』で楽しんでいた



荒山玲奈になった彼女を
もう少し独占したって
バチは当たらないだろう…





END